

Justice + Peace 通信

2022年
NO.115
6月18日

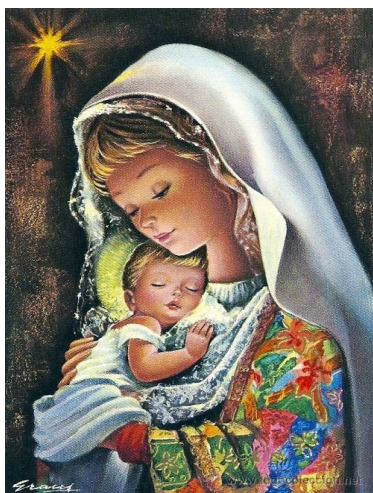
発行:カトリック札幌教区正義と平和協議会

〒060-0031 札幌市中央区北1条東6丁目10
札幌教区カトリックセンター気付



巻頭言

カトリック札幌教区正平協 担当司祭 ボナヴェントウラ 蓑島 克哉



皆さん、本年度より担当司祭となりました蓑島克哉です。神と人を繋ぐ聖務に人生のすべてを捧げていますが、ときに正義と平和協議会の活動に参加できないときもあります。そんな私にとってこの“JP通信”は、信仰を実生活の中で証しするための大きな指針であり、何よりもそこで活動されている諸兄姉の皆様の姿が、聖職を歩む私にとって大きな支えであると同時に大きな模範となっています。これまで通り皆さんから多くを学びながら、司教様と皆様を繋ぐ良きパイプ役になりたいと思います。どうぞご指導とご鞭撻をよろしく

しくお願いします。

「母」という言葉がありますが、わたしたちは皆、“母”なる存在から命をいただきました。私は“母”から、「お前は大切なんだよ」ということを、ぬくもりを通じて教えていただきました。そういう存在が、世界共通に“母”と呼ばれているのかもしれませんが、人を殺すために息子を戦争へと送り出したい母がいるのでしょうか。息子が死んでしまうことを悲しまない母がいるのでしょうか。教会にいと母になり切れない方に出会うこともあります。イエス様は、誰も一人ぼっちにならないようにと、すべての人に自分のお母さんを与えてくださいました。世界中で繰り返されている紛争や戦争、小さくされている兄弟姉妹の涙、どうぞ母マリアがすべての人の心を、母のぬくもりで包んでくださいますように。今回のJP通信もまた、小さくされている兄弟姉妹と寄り添う“母”の愛が随所に散りばめられています。この活動と関わるすべての人の上に、主イエスの豊かな恵みと平和、母なる聖霊の慰めが与えられますように祈りたいと思います。短いですが、これで着任の挨拶を終わります。どうぞよろしくおねがいします。

中野 晃一（上智大学）さん講演会

『平和憲法を守るために求められること』から

2022年4月2日 カトリックセンター

カトリック札幌教区正平協 佐藤 裕子

久しぶりに実施された対面での講演会。カトリックセンターでの参加は44名、オンラインでの参加者は道内外から38名となり、センターでは集まる喜びを感じるひと時となりました。中野先生の講演会は、2015年、2018年に続いて3回目。私たちカトリックの後ろ盾としていつも心強く感じています。

昨秋の衆院選の結果、さらにロシアのウクライナ侵攻を受けて軍備の必要を唱える声が大きくなってきた今、平和憲法はいよいよ危ない局面であると中野先生は言われました。さらに、投票率の低さ、マスコミの偏向、あまりにも男性中心であること、経済の暗い見通しなど、あえて悪い所を正面から捉える必要＝正しく絶望することから始める＝を説かれました。そしてウクライナの問題



から日本をどう考えるかについてのお話は、参加者のみなさまも事象を整理し考えを立て直す貴重な機会となったことと思います。

確かに、ウクライナの惨状は、「とにかく戦争はダメだ」の声を日々の暮らしの中で素直に出しやすい状況を生んでいると言えるでしょう。毎日の報道を通して子どもまでがそう感じているのが今なのであり、「素朴な平和主義（理屈ではない、子どもを戦場に送ることや逃げ惑うのがいやだと思うこと）」は伝えやすいし訴えやすいのだとも。なるほど、これはチャンスなのですね！

折しも、いわゆる「（改憲派にとって）黄金の3年間」に臨む参院選挙は目前、この講演会で得たキーワードをこのチャンスに活かしたいと思います。

- ・「抑止のために武力を増す」ことは、相手にとっては「脅威が増す」こと
 - ・大切なのは「信頼を醸成すること」
 - ・「戦争をさせない」ということは不可能じゃないし、やらなくてはならない
- また、改憲勢力の動きを捉え、選挙をどう闘うべきなのか、専門的なお話をうかがうことができました。

「政治を教会に持ち込むべきではない」という考え方がありますが、事実、今起きている戦争には宗教が、信仰が大きく関わっています。平和な、命の喜びに満ちた社会の実現をめざすとき、カトリック信者こそ政治に向き合わなく

てはならないと思います。そして、教皇フランシスコのこの言葉を覚えたいと思います。

「どの戦争も必ず、世界を、かつての姿よりもいっそう劣化させます。戦争は、政治の失敗、人間性の欠如であり、悪しき勢力に対する恥すべき降伏、敗北なのです。理屈をこねるのはやめて、傷に触れ、犠牲者のからだに触れようではありませんか。「巻き添え被害」で殺戮された無数の民間人を、しっかり見つめようではありませんか。犠牲者に尋ねようではありませんか。避難民、被曝者や化学兵器の被害者、わが子を亡くした母、手足を失った子や幼少期を奪われた子どもたちに、目を向けようではありませんか。こうした暴力の犠牲者が伝える真実に意識を向け、彼らの目を通して現実を見つめ、開かれた心で彼らの話に耳を傾けようではありませんか。そうすれば、戦争の根底にある悪の深淵に気づけるようになり、平和を選ぶことで愚直だと言われようとも動じることはないのです。（「回勅 兄弟の皆さん」第7章 261）



今回、会場に中学生の参加がありました。中野先生からも「中学2年生の男子の姿を見て、一際うれしく思いました」とのコメントをいただきました。私たちの学びと活動を若い世代にどう繋げて行くのか、ここであらためて考えましょう。彼らの生きるこれからの社会のための今の私たちです。

最後に今一度、当日、東京から日帰りで来札くださった中野先生に心から感謝申し上げます。

※当日の動画はこちら <https://youtu.be/pLJuWZC6Ik8>

※政治を理解するための中野先生のYouTube「プログレッシブ！チャンネル」
https://www.youtube.com/channel/UC583xtn_Q202htmDBIHXXKQ

札幌正平協 2022年度総会 概要報告

カトリック札幌教区正平協 山口 雄司

4月24日、2022年度の「札幌教区正義と平和協議会」の総会が、カトリックセンター会場 出席者 12名、オンライン出席者 5名の、合計17名の出席により、開催された。（詳細は、報告書を参照）

新海神父を引き継いで、担当司祭として正義と平和の活動を導き、指導してくださった加藤鐵男神父が退任、新たに蓑島克哉神父が担当司祭に就任された。

(蕨島神父は、現在、室蘭教会と伊達教会の主任司祭を担当。)

さらに、10年間、代表として、的確な判断力とリーダーシップで、正義と平和活動の発展に尽力した松永代表が退き、浅井繁と佐藤裕子による、共同代表が就任。二人を中心に、新たに正義と平和の活動をすすめていくこととなった。

蕨島神父は新任挨拶の中で、「ウポポイ」を見学し、アイヌの、自然とともに生きる歴史を学ぶとともに、いつの時代も勝者による弱者への迫害があることを学んだ事。また、神学生時代に、原発近くの畑でボランティアとして働き、大量の出血があった経験を語られ、「もっと関心を持って、皆さんと連帯せねばと痛感した」、「正義と平和協議会の集いは、『福音を告げ知らせなさい』というイエス様に従う私達にとって、大きな情報源であると同時に、歩むべき道筋を示して下さる大きな委員会だと思います。」と述べられた。

協議事項

2021年度の「活動経過と総括」として、事務局会議、例会と、6月に実施された、谷大二名誉司教による「平和講演会」、7月 映画「標的」上映と植村隆さん報告会、9月 岡野八代さん講演会、10月「全道交流会」・成井大介司教講演会、11月正平協全国集会・分科会「知っていましたか？いま地層処分してはいけない8つの理由（講師：小野有五さん）」主催、等の報告があった。

来年度へ向けての活動についての話し合いでは、会場参加者より、「『憲法に関する学習会の実施』、『環境における問題等に関する学習会』、『農業、食料問題に関する学習会』等を開催して欲しい。」との意見があり、例会の中で検討することになった。

また、今後の学習会の予定として、

- 死刑廃止 柳川朋毅さん（死刑廃止を求める部会）
- 小出裕章さん 講演会 宗教者ネットワーク主催
等が予定されているとの報告があった。

役員改選

事務局退任	松永 武 代表、高平 晴弘、西 千津
会計監査退任	山田 恵子
事務局新任	共同代表 浅井 繁、佐藤 裕子 副代表 山口 雄司
会計監査新任	鈴木 澄江
事務局留任	会計 鳥居 明子、藤田 春美

以上、総会審議事項が全会一致で承認された後、新旧役員の挨拶があった。

退任挨拶

松永 武

2012年の春に代表に選出され、10年間、皆さんの支えの下で、活動をすすめてまいりました。鈴木澄江さんの力が大きかったと思います。感謝したい。また、事務局の皆さん、例会に参加された皆さんに感謝しております。今後は一会員として、やっていきたいと思ひます。本当にお世話になりました。

新任挨拶

共同代表 浅井 繁

旭川に住んで、大雪連峰を毎日眺めています。この自然と、戦さの無い平和な日本を次世代につないでいかねばならぬ、これが私の最後の活動の中心という風に、自分に言い聞かせながら、生きております。「正義と平和」という活動できる場を頂戴したことを感謝しております。

共同代表 佐藤 裕子

まず、共同代表という事で、お願いしたのは、広く全道エリアを考えた上での代表の立て方として、共同代表という形をお願いした所存です。

私どもに課せられた課題というのは、待った無しのものであり、非常に多岐にわたっているということで、かなり、物事をスピーディーに動かさなければいけないと切に感じています。

なるべくたくさんの方々からご意見や知恵をいただいで進めていくことが必要だと思ひます。松永さんには、相談役としてご助言、お力添えをお願いしたいと思ひます。

副代表 山口 雄司

私も引退の時期ですが、昔からの「札幌地区正義と平和委」の事情を知っている者として、副代表をお受けいたしました。我々の小さな努力でも、皆で力を合わせれば、解決できると考えています。1年間よろしくお願ひいたします。

以上

※ 2022年度の総会も、昨年、一昨年に続きコロナ禍の中での実施となった。総会では、平和講演会や映画上映会、全道交流会等を成功させたことなどの報告があった。コロナ禍という制約はあっても、オンラインを活かし、「全道交流会」等、道内各地に活動の広がりが見られた。

一方で、例会や講演会の際、カトリックセンター会場での参加が困難な方、オンラインでの参加が出来ない方たちへの対応も課題として残っている。

また、正義と平和活動が、皆さんの日々の活動によって着実に拡がりと共に感を持って受け入れられていると同時に、未だに無理解や、反発などがあることも事実であろう。

コロナによる分散ミサの実施等、教会での日常の「正義と平和」活動が困難ではあるが、ピースサインの会等との協働を図りながら、小教区での働きかけを継続し、正平活動への理解と協力を得る努力が必要である。

核ゴミ 廃炉訴訟

泊原発訴訟から

カトリック札幌教区正平協 藤田 春美

2022年5月31日(火)札幌地裁前には雨模様の中、大勢の報道陣が集まっていました。

2011年11月11日の提訴から10年、北海道電力泊原発は安全性を欠くとして道内外の1201人が北電に対し、廃炉や運転差し止めを求めた集団訴訟の判決が言い渡される日だったからです。

午後3時からの開廷を前に26枚の傍聴券を求め、150人以上が抽選の列に並びました。私は抽選に外れ、他の多くの方たちと外で結果をドキドキしながら待っていました。ほどなく弁護士の2人の女性が判決文を手を駆け出てきました。「差し止め 認める」です。「やった!」「良かった!」「勝った!」嬉しい判決に両手をあげて喜ぶ大勢の原告たちの姿がありました。

谷口哲也裁判長は、北電側が安全性の主張立証を10年以上たってもまともに行わず、常に原子力規制委員会の審査待ちで先延ばしにしている姿勢を良しとせず、「審議は熟した」と今年1月に審理を打ち切り結審としていました。

「泊原発は安全性の基準を満たさず、放射能漏れ事故で住民の人格権が侵害される具体的な危険性があると認め、北電側に1～3号機の運転差し止めを命じる」

国の意向に忖度せず、規制委の審査結果を待たず、裁判所として毅然と独立した判断を示しました。北大名誉教授の小野有五さんらが敷地内活断層などの存在を科学的に立証したことを含め原告側がきちんと行ってきた危険性の主張立証に対し、北電側は安全性を証明できなかったことで「運転差し止め」とされました。しかし北電側はこの判決を不服とし控訴しました。北電は津波や活断層、火山の影響、避難計画に対しても明確な安全性の立証をする責任を持つこととなります。

裁判で認められたのは残念ながら30km圏内住民44人のみで、使用済み核燃料の撤去や廃炉請求は棄却されました。裁判が更に長引くことは不本意ながら、原告側も一層の成果を求めて控訴の予定です。また、この裁判では使用済み核燃料(核のゴミ)の危険性が認められました。泊原発はこの10年間止まっていたので核のゴミを増やさずに済みました。止まっていたとしても電気に困ることは

ありませんでした。これ以上、危険な核のゴミを増やさないためにも全ての原発をすぐに止めて欲しいものです。

寿都町と神恵内村で進められている高レベル放射性廃棄物(核のゴミ)最終処分地選定にむけての文献調査を中止し、概要調査を断念するよう、札幌正平協も参加している「泊原発を再稼働させない・核ゴミを持ち込ませない北海道連絡会」は、核のゴミを持ち込ませないための行動として、今年2月の道議会へ5団体が請願書を提出しました。これからも当会を含む請願可能な団体が逐次提出して行く予定です。鈴木知事への「核ゴミやめて」の署名も始めました。みなさんのご協力をどうぞよろしくお願いします。

宗教者ネットワーク 報告

核ゴミ学習会を開催

カトリック札幌教区正平協 浅井 繁

2021年秋、「日本カトリック正平協全国集会 第15分科会（いま地層処分してはいけない8つの理由）」を主催する札幌教区正平協に「原子力行政を問い直す宗教者の会」からの呼びかけがあり、道内のキリスト教、仏教の各宗派が参加して「核ゴミの地層処分に反対する宗教者ネットワーク（以下、宗教者ネットワーク）」が発足した。

現在、寿都町と神恵内村では高レベル放射性廃棄物地層処分のための文献調査が行われており、来春には概要調査に進むと言われている。【宗教者ネットワーク】では、鈴木北海道知事が「条例の趣旨を踏まえ、現時点では反対の意見



を述べる」と表明されている姿勢に敬意を表するとともに、その姿勢を最後まで貫かれることを要望する申し入れを行うこととした。同時に、私たち北海道民が核ゴミ地層処分についての科学的知見を深めることが重要であると考え、手始めに反原発のカリスマとも呼ばれる小出裕章さんを講師にお迎えし、旭川をメイン、帯広をサテライト会場として講演会を開催した。

テーマは「核のごみと謂れなき犠牲の押し付け」と設定した。

講演会の参加者は両会場とZOOM参加を合わせ360名となった。講師からは、日本は、累積で広島原爆125万発に相当する死の灰を作ってしまう、そして「電力の恩恵は都会が受け、危険は過疎地に押し付けられ」ている状況が説明された。また、日本の国土は4つの大陸プ

レートがひしめき合っていて、国内のどこにも埋設適地など存在しないことも示された。

では、既に作られてしまった核廃棄物をどうするか、地層深く埋めて管理責任を放棄するのではなく、現在の技術では、地上の見える場所に10万年以上の間、隔離するより方法がないことが示された。

最後に「すべての命は他のどの命にも代えることができないかけがえのない命、宗教を持つ人たちは、核のゴミ問題をどう思われるのでしょうか」との問いかけがあった。

この学習会では各宗派から8名のスタッフが参加、各人が自主的かつ積極的に働いて下さったことも大きな喜びであったと同時に、感謝の念に堪えない。

この後の学習会は、7/3 函館、7/4 苫小牧、7/5 黒松内(以上澤井正子さん)、7/9 札幌(小出裕章さん、村上達也さん)を予定、知事(道庁)への申し入れは7/11で調整中。

事務局からのお知らせ

■ 賛同金の協力者 敬称略

2021年12月16日～2022年5月11日まで

今田 玄五 仲澤 坦子 小林 慧子 佐藤 嘉一 渡辺 敏美 カトリック正義と平和広島協議会 土田 裕江 鈴木 澄江 高平 晴弘 下川原 瑞恵 松永 武 松永 道子 池田 道子 P.マッカーティン 藤田 春美

.....ご協力ありがとうございました。

■ ホームページ 札幌司教区ホームページ <https://csd.or.jp/>
トップページのメニューよりお入りください。

■ 賛同金振込み先

郵便振替 02780-2-5303
カトリック札幌教区正義と平和協議会
賛同金(年間) 1口 2,000円

■ 月例会の案内

毎月最終火曜日 18:30～ カトリックセンターとオンライン(zoom)にて。
※都合により日時と会場の変更があります。

問合せ先 電話 : 山口 090-9515-6325
e-mail : 佐藤 yk@satoh-design.com
: 浅井 inakappei61@gmail.com
編集 : 山口 takatakachan5014@jcom